

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立長束小学校		
学校長氏名	堀 達司	栄養教諭氏名	河野 朋葉
職員数	46名	児童・生徒数	501名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

【昨年度からの課題】

①食育の学校体制

食に関する指導の全体計画に合わせて指導を行ったが、職員の共通理解が少し難しい場面もあった。また、目標値や成果指標もなく、数値として取組の成果を判断できない。

②家庭・地域との連携

学校での取組を家庭や地域に伝える機会や、家庭や地域での取組を情報収集する機会が少ない。

③教科等における食に関する指導の充実

昨年度までは特別活動以外に、3, 4年生体育科(保健領域)と5, 6年生言語・数理運用科, 家庭科の授業にT2として入り、授業を行ってきたが、まだ教科で食に関する指導に入れる所が多くある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

○食育の学校体制

より分かりやすい全体計画を作成する、取り組みやすい所から目標値や成果指標を入れるなどして、学校全体で食育を取り組めるようにする。

本校では、前期と後期に全学年の児童に学校評価アンケートを行っている。質問の1つに「感謝して食べる」があるため、その割合と、日々出している残食率を今年度の目標値として設定した。

【今年度目標値】 残食率 主食 1.5%, 副食 1%以下 感謝して食べる子どもの割合 95%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】(テーマ) 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組について

①子どもから子どもへの食に関する指導の充実(委員会活動)

- ・給食委員会の児童を中心に、給食のおいしさを知ってもらい、楽しく食べられるように取り組んだ。
(ぱくぱくの木・給食放送・栄養黒板・給食ランド)
- ・ぱくぱくの木 毎日の残食率によって木の葉の色が変化する。

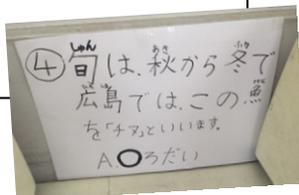
毎日の給食放送で、給食の残りを発表し、日々の残りを意識できるようにした。全て赤色の葉(全ての日、全ての献立で2%以下)になる月もあり、委員会の児童の手作りの賞状で表彰した。



- ・給食ランド 児童だけで食に関するゲームを考え、楽しく食について学ぶ。
(食育週間・給食週間の年2回実施)



豆つかみゲーム、給食室体験、カルタなど、児童が考えたゲームを楽しみながら、食について学ぶことができた。また、毎日の給食放送でも、委員会の児童がその日の献立の特徴をお知らせし、子どもから子どもへ食に関する指導を行うことで、より興味・関心をもつ児童も多くいた。



②学級担任や専科と連携した，TTの授業による，食に関する指導の充実

- ・今年度は昨年度以上に，学級担任や専科と連携した，食に関する指導を行った。

主な教科

- 1年生：特別活動 2年生：特別活動
- 3年生：体育科(保健領域)，特別活動
- 4年生：体育科(保健領域)，特別活動
- 5年生：社会科，言語・数理運用科，家庭科，特別活動
- 6年生：体育科(保健領域)，言語・数理運用科，家庭科



体育科(保健領域)で，生活習慣病の予防するためには，糖分・しぼう分・塩分をとりすぎないように気をつけることを学習した後，塩分のとりすぎに気をつけるための方法として，家庭科でみそ玉作りをするなど，様々な学年・教科で学習したことを，つなげられるよう，事前に担当者と打ち合わせを実施した。

【取組2】(テーマ) 家庭・地域との連携

①食育通信「ばくばくだより」発行

- ・食育通信に，学校での食育の取組について書いたり，家庭にはたらきかけたい内容や家庭での食育の取組を掲載したりなど，学校と家庭を少しずつつなげられるよう，取り組んだ。

②ホームページの更新(2月末時点で53回更新)

- ・学校での食育の取組を知ってもらうために，定期的に給食や授業の内容について，更新を行った。

③参観日の実施

- ・4年生体育科(保健領域)や，5年生特別活動で保護者に向けて，授業公開を行った。

④スーパーとの連携

- ・今年度より，近隣のスーパーに献立表を掲示してもらうなど，連携をスタートした。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・4月から食育通信にて，応募開始や決定メニューのお知らせをしたり，児童が書いた日記や写真などを掲載したりするなど，学校や家庭での取組について，情報発信を行った。
- ・100万食プロジェクトの出前講座で，5年生を対象に和食や出汁の良さについて授業を行った。また，学校へ行こう週間に合わせて実施することで，多くの保護者や地域の方にも伝える機会となった。



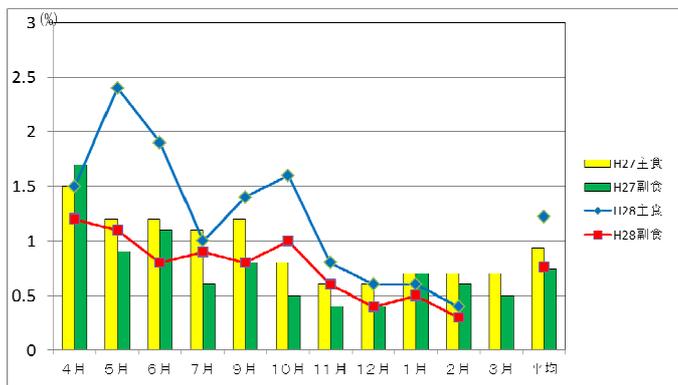
出汁の引き方や飾り切りの実演を児童と一緒に興味をもちながら見る，保護者や地域の方々

5 取組に対する成果と課題

【成果】

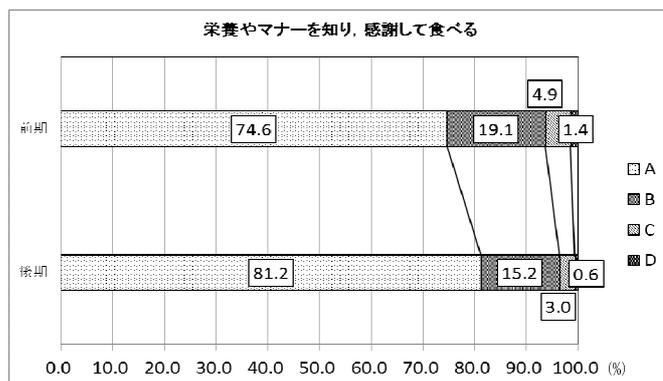
- ①2月末の時点で，主食1.2%，副食0.8%と，目標達成(主食1.5%，副食1%以下)できている。

11月までは昨年度の残食率より上回っている場面もあったが，つぎ切りの徹底や委員会の児童の取組もあり，現在は昨年度より残食率が下回っている。



②感謝して食べる子どもの割合が96.4%と、目標達成(95%以上)できている。また、保護者の学校アンケートにも「楽しく食育できているので、好き嫌いが少なくなりました」との記入もあった。

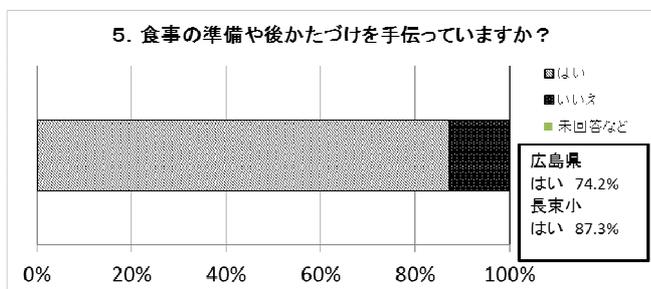
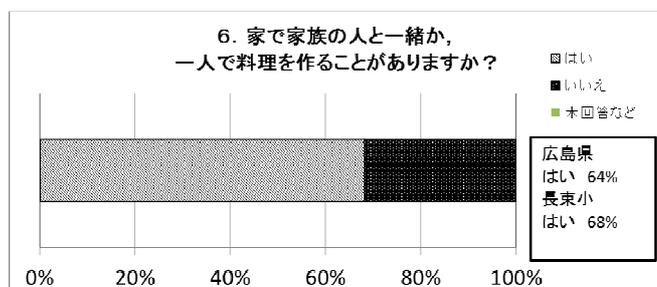
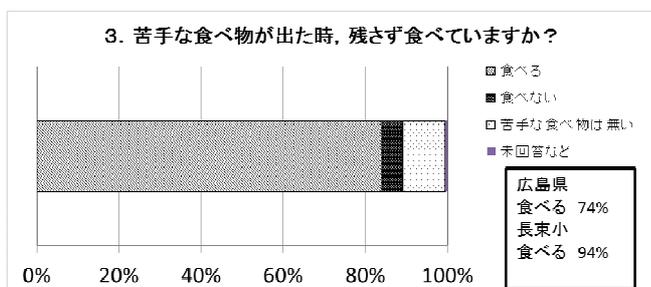
A : いつもしている B : ほとんどしている
C : ときどきしている D : あまりしていない



【課題】

①成果指標・目標値の設定方法

今年度は、初めて目標値を設定した。学校全体で目標値に取り組むため、学校評価アンケートにもと入っていた、「感謝して食べる」を設定したが、来年度は新たな目標値の設定の必要を感じる。理由は、ほとんどの児童が感謝して食べていること、残食率も低いこと、また「感謝して食べる」ことは、児童の主観で日々大きく影響されることである。そこで、児童の実態を数値として、再度把握するために、全児童に「食に関する実態調査」の一部を調査した。



苦手な食べ物が出た時、ほとんどの児童が残さず食べている。食事の準備や後かたづけを手伝っている児童も多いが、料理を作る児童になると、約20%も下がっている。料理を作ることで、食べ物と触れ合い、興味・関心が高まることや、家庭での食の話題が広がることから、家庭で料理を作ることがある児童の割合を増やしたい。

6 今後の取組に向けた改善方策について

①教科等における食に関する指導の充実

児童の食に関する興味・関心をより高めるために、引き続き、様々な教科・単元に入り、食に関する指導を進めていきたい。特に、家庭科は調理を実際に経験する教科であるため、児童が家でもやってみたい！と思えるような工夫をしていきたい。また、中学年の総合的な学習の時間でも、現在は食に関する内容ではないため、担任と相談して、可能であれば、食に関する内容で進めていきたい。

②家庭・地域との連携

家庭で料理を作る児童の割合を高めるため、レシピの提供や、食育通信「ぱくぱくだより」で作った写真や日記を掲載するなど、意欲を高める手立てを、年間を通して取り入れていきたい。また親子料理教室の実施や、スーパーとの連携により、家庭だけでなく地域にも、料理をするつながりを広げていきたい。